

令和2年4月30日
農推第1189号

病害虫発生・防除情報メールサービス

大阪府環境農林水産部農政室

今冬は記録的な暖冬でした。
例年とは異なる病害虫の発生パターンに注意しましょう。

特に発生に注意

水稲

- ◆いもち病やもみ枯細菌病などの防除のため、種子消毒を行いましょう！
- ◆育苗箱などの資材は使用前にケミクロング、イチバンなどで消毒する。
- ◆もみ枯細菌病は、出芽時の温度が高い場合に発病しやすいので、30度以下になるよう育苗時の温度管理に注意する。

もも

せん孔細菌病

昨秋の発生が多く、今年も発生が懸念されます。気象情報に注意し、雨風が強まる前に予防的に農薬散布しましょう。

クビアカツヤカミキリ

近年発生地域が拡大しており、注意が必要です。フラスの発生に注意してください。

たまねぎ

べと病

例年より発生が多いほ場があり、引き続き注意が必要です。

ぶどう

クワゴマダラヒトリ

暖冬で越冬数が多く、活動が早いと考えられます。発生を確認したら早期に防除しましょう。

せん孔細菌病
の葉病斑

クビアカツヤカミキリのフラス

次回の情報は5月末にお知らせします。

◎「病害虫防除グループホームページ」 <http://www.jppn.ne.jp/osaka/>

◎「防除指針」 <http://www.jppn.ne.jp/osaka/shishin/shishin.html>

※農薬を使用する際には、必ず農薬のラベルを確認してください。

水稻

種子消毒、育苗

種子消毒

薬剤を使用する場合の注意

- ◆テクリードCフロアブル、スポルタックスターナSEなどで消毒する。
- ◆消毒後は種子を水洗いせずに浸種する。

温湯消毒の場合の注意

- ◆60度の湯に10分間浸漬する。引き上げ後、直ちに流水中で冷やす。
- ◆温度ムラが出ないように、時々種子袋を揺する。

育苗準備

- ◆育苗箱などの資材は使用前にケミクロング、イチバンなどで消毒する。

イネもみ枯細菌病（苗腐敗症）



苗腐敗の症状



玄米の症状 ※

防除のポイント

- ◆特に出芽時の温度が高い場合に発病しやすいので、30度以下になるよう育苗時の温度管理に注意する。

苗立枯病



フザリウム菌による苗立枯れ *

防除のポイント

- ◆育苗箱での発生を認めたら、ダコニール1000（リゾープス菌）、タチガレースM液剤（ピシウム菌、フザリウム菌）、バリダシン液剤5（白絹病菌、リゾクトニア菌）、ベンレート水和剤（トリコデルマ菌）などをかん注する。

果樹

ぶどう

灰色かび病



特徴

- ◆多湿条件で発生が多くなる。
- ◆胞子(分生胞子)が雨や風によって飛散し、傷口などから感染する。

防除のポイント

- ◆適切に換気を行い、湿度を下げるようにする。
- ◆花がらが発生源となることが多いので、開花後に花がらを取り除く。
- ◆地表面にはビニルマルチを行う。
- ◆落花後にゲッター水和剤、スイッチ顆粒水和剤、ネクスターフロアブルなどを散布する。

ハスモンヨトウ



幼虫

特徴

- ◆早期加温栽培では3~4月に被害を受けやすい。

防除のポイント

- ◆成虫発生初期から終期まで、フェロモンディスペンサー(ヨトウコン-H)を設置する。
- ◆発生を確認した場合は、エクシレルSE、フェニックスフロアブル、ディアナWDGなどを散布する。

クワゴマダラヒトリ



幼虫

特徴

- ◆成虫は年1回、アカメガシワ、ニセアカシア、カラスザンショウなどに産卵する。越冬は、主に5齢幼虫で落葉や樹木の地際部で行う。越冬後、幼虫が移動し、5月中ブドウの新梢や葉を食害する。

防除のポイント

- ◆新梢の発生時期に加害されると被害が大きいため初期防除に努める。
- ◆発生を確認した場合は、エクシレルSE、フェニックスフロアブル、オリオン水和剤40などを散布する。

温州みかん

アブラムシ類



ワタアブラムシ ※

特徴

- ◆新梢や葉裏に集団で寄生し吸汁する。
- ◆被害にあった葉は小さくなったり、巻いたりする。
- ◆排泄物が原因となり、すす病が発生し、汚れる。

防除のポイント

- ◆発生を認めたら、コルト顆粒水和剤、モスピラン顆粒水溶剤、スタークル顆粒水溶剤、アルパリン顆粒水溶剤などを散布する。

もも

せん孔細菌病

せん孔細菌病の特徴および防除方法については、下記リンク先の

3月25日発表の防除情報「せん孔細菌病(もも)の発生に注意」をご確認ください。

☞ <http://www.jppn.ne.jp/osaka/H31nd/boujyoyouhou/R0203%20momo%20senkou.pdf>

クビアカツヤカミキリ

クビアカツヤカミキリの特徴および防除方法については、下記リンク先の

令和元年5月7日発表の防除情報「クビアカツヤカミキリに注意！」をご確認ください。

☞ <http://www.jppn.ne.jp/osaka/H31nd/boujyoyouhou/H3105kubiaka.pdf>

いちじく

アザミウマ類



被害果実

特徴

- ◆果実内に侵入し食害する。食害された果実は内部が変色する。
- ◆発生のピークは5月下旬～6月中旬。

防除のポイント

- ◆5月下旬からスピノエース顆粒水和剤などを散布する。
- ◆ほ場の周囲を0.8mm目合いの赤色ネットで覆い、成虫の侵入を抑える。
- ◆乱反射型光拡散シートをマルチとして設置し、成虫の侵入を抑える。

●病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。
(<http://www.jppn.ne.jp/osaka/>)

●農薬を使用する際は、登録内容を確認してください。

※原図：(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所

*原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑(大阪府植物防疫協会)

野菜

トマト・ミニトマト(施設栽培)

灰色かび病



特徴

◆施設栽培で発生が多い。20℃くらいの多湿時に発生が多く、花がらや果実のがくから発生し、果実に被害が発生する。

防除のポイント

◆発生を認めたら、ロブール水和剤やファンタジスタ顆粒水和剤などを散布する。

コナジラミ類



特徴

◆吸汁による白化のほか、トマトではTYLCV（トマト黄化葉巻ウイルス）を伝搬し、致命的な被害をもたらすこともある。

防除のポイント

- ◆トマト黄化葉巻病は感染すると株ごと除去する以外に対策がないので、媒介するコナジラミ類の防除を徹底する。
- ◆施設開口部に目合い0.4mmのネットを展張する。
- ◆ほ場周辺の雑草、特に野良生えトマトの除草を徹底する。
- ◆グレーシア乳剤、ベネビアODなどを散布する。

たまねぎ

べと病

たまねぎべと病の特徴および防除方法については、下記リンク先の4月10日発表の防除情報「引き続きたまねぎのべと病に注意！」をご確認ください。

☞ <http://www.jpnn.ne.jp/osaka/H31nd/boujyoyouhou/R0204tamanegebeto.pdf>

白色疫病

たまねぎ白色疫病の特徴および防除方法については、下記リンク先の3月13日発表の防除情報「たまねぎ 白色疫病 注意！」をご確認ください。

☞ <http://www.jpnn.ne.jp/osaka/H31nd/boujyoyouhou/R20313shiroeki.pdf>

●病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。
(<http://www.jpnn.ne.jp/osaka/>)

●農薬を使用する際は、登録内容を確認してください。

たまねぎ

ネギアザミウマ



ネギアザミウマ被害葉※



ネギアザミウマ ※

特徴

◆薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統の薬剤を連用を避け、ローテーション散布する。

防除のポイント

◆発生を認めたら、グレースシア乳剤、ディアナSC、モスピラン顆粒水溶剤、プレオフロアブル、リーフガード顆粒水和剤などを散布する。

なす

アブラムシ類



ワタアブラムシ

特徴

◆作物を吸汁し、生長を阻害する。また、排泄物にカビが発生し、すす病の原因となる。さらに、ウイルスを媒介し、特に水なすの露地栽培でウイルス病が発生しやすい。

防除のポイント

◆発生が見られたら、スタークル顆粒水溶剤、アルパリン顆粒水溶剤、トランフォームフロアブル、ウララDFなどを散布する。